



# 自分たちのまちは自分たちで守る 地域防災リーダー研修



6月11日(土)に長柄公園(長柄西2)で、北消防署の隊員指導のもと地域防災リーダー研修を行いました。参加したのは豊仁・豊崎東・菅北エリアの地域防災リーダー約30名。コロナ禍で中止が続き、約3年ぶりの開催でした。

地域防災リーダーとは、1995年の阪神・淡路大地震の教訓をきっかけに生まれた地域防災の担い手。地域ごとに構成され、大規模災害時に住民の先頭に立って、初期消火や救出救護にあたります。日頃は地域の防災点検や啓発活動、もしもに備えた訓練をしています。

研修では2チームに分かれて、可搬式ポンプとロープ結索のコツやポイントを学びました。集合時は和やかな雰囲気でしたが、訓練開始後は皆さん真剣な表情に。

「久しぶりの開催で、忘れてしまったことも多い。前回より参加者も減ってしまい、活動を継続する大切さを実感しました」と豊仁連合振興町会会長の岩岸敏雄さん。菅北連合振興町会会長の中川章さんは、「防災リーダーは結成時からのメンバーが中心。次世代に継承する必要性を感じています」と担い手育成の課題も強調します。

「より実践的な訓練が必要」と話すのは、豊崎東地域の災害救助部長・松浦潤也さん。「秋にはコロナ禍を想定した避難所開設訓練を予定しています」と、若い世代も参加できる訓練を地域で準備中です。



## ●可搬式ポンプ

大阪市が各地域の公園などに配備している小型消防ポンプです。地震や津波の発生時には、火災の二次災害が想定されます。行政や消防機関の助けが到着するまでに、地域で初期消火をして延焼を食い止めることが重要です。



ポンプの操作説明と実動訓練

水を汲み上げる貯水槽のふたの開け方、ポンプの稼働、ホース展開から放水まで、一連の作業を訓練。3~4人で役割を分担する必要があるため、地域のチームワークが欠かせません。



ノズルを操作して放水!

## ●ロープ結索

ひもやロープを使って結び目を作ったり、物をしばり付けたりする方法です。ほどけにくく、ほどきやすいのが特徴。訓練ではバーを使って、ほどけない結び目の作り方や体とロープのしばり方など、3通りの結び方を学びました。現場ですぐ対応できるよう、何度も繰り返して体で覚えることが大切です。



一人で結索できるように  
なるまで反復練習

地域に住む人や災害時に想定される被害などもさまざま。防災リーダーが訓練で学んだことを地域の課題解決に反映し、地域ごとの防災を編み出していくことが、まち全体の防災力アップにつながります。

まずは、消防署の隊員が  
地域防災リーダーの  
役割を説明



# さまざまな“視点”で防災力を強化! 令和4年度 北区 の取組

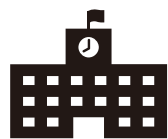
災害時は自助・共助が大切ですが、そのためには日頃からの備えが必要です。

北区役所では地域自主防災組織をはじめ学校、企業等と連携し、さまざまな防災訓練や防災学習に今後も取り組んでいきます。より多くの区民の方に、地域ごとの課題に向き合いながら、起こりうる災害のことを身近に感じていただくことで、北区全体の防災力向上をめざします。



## ●コンセプト型防災訓練の展開

津波浸水想定エリアにおける地震津波想定訓練、木造建物密集エリアにおける直下型地震想定訓練、ターミナル周辺エリアにおける帰宅困難者対策など、想定されている災害種別や立地に応じた訓練を地域自主防災組織や学校と区役所が連携し実施していきます。



6月12日(日)に実施した西天満小学校での帰宅困難者対応訓練。災害時には児童や地域住民に加えて、周辺のオフィスで働く人々の避難も予想されます。必要な情報を提供し、人の流れを整理することが課題です。

## ●映像で分かりやすく

### 企業や学校等と連携して新防災ツール

コロナ禍でここ数年は、防災訓練や防災学習の中断を余儀なくされました。いつでも、どこでも学べるように、企業や学校等と連携して、視覚的にも分かりやすい新防災ツールを制作していきます。規模や場所を問わず、避難所開設の手順や身近な住まいの防災を学べるようにします。

## ●災害時に支援を必要とする方の 個別避難計画

緊急時の連絡先、支援者、避難所、避難方法などについて、避難行動要支援者(災害時に自力での避難が難しいと思われる方々のうち特に支援が必要な方々等)ごとに具体的に記載した計画書の策定を今後、地域自主防災組織等と連携しながら進めていきます。

